

田の草とり

終戦の翌年、中国から帰郷して農業試験場に戻るまでの1年間農業に従事したが、農作業のうちで最も過酷なのは田の草とりであった。手押しの中耕除草機(キ)と手どり除草(手)の組み合わせが定着していて、キ→手→キ→手→手が代表的な体系であったが、炎天下に四つんばいになり、1株1株に手を廻して泥をかき、草をまとめて埋める作業の繰り返しを迅速、確実にして進まなければならない。止め草ともなると、硬くなった稲の葉ですれた皮膚に汗がしみ、ひりひりする。昼さがりには、田んぼの中から婦人達の長く尾をひく哀調を帯びた田の草とりのうたが聴こえてきたのが今でも耳に残っている。もう今では歌える人も少ないだろう。田園の風物詩などといっておれない宿命的な草との闘いであった。この当時の経験があとまで除草剤の普及へのファイトをかりたてたと思っている。近年、稲作の労働時間が著しく減少している。それを東北地方についてみると、20年前、除草剤普及直前の昭和30年に10a当たり186時間が昭和48年から100時間を割り、さらに減少の傾向にある。そのうち、除草労働時間がそれぞれ27.9時間が11.6時間となった。東北地方のような寒冷地稲作では、除草剤の使用が困難視されたその頃と今とでは、大きな差となって統計に表れている。時間の短縮もさることながら、むしろ表現できないほど過酷な田の草とりからの解放を有難く思っている。今後、多年生雑草の問題や残草による減収程度等未解決のことも多い。草との闘いは終わるところを知らないといつくづく感じている。

(日本植物調節剤研究協会東北支部長 藤巻竹千代)

目 次

(第9巻第12号)

サヤヌカグサの生態と防除……………	2
＜福岡県農業試験場 古城齊一＞	
Ⅰ. はじめに……………	2
Ⅱ. サヤヌカグサの生育状況……………	2
1. 生育場所……………	2
2. 出芽(萌芽)……………	2
3. 生 育……………	2
4. 出穂・開花・結実……………	2
5. 越冬器官……………	3
6. 増 殖……………	3
Ⅲ. 除草剤による防除法……………	3
1. 有効な除草剤について……………	3
2. 処理時期について……………	3
3. サヤヌカグサの水没程度が異なる場合の除草剤稀釈濃度……………	4
4. 組み合わせ処理……………	5
Ⅳ. おわりに……………	5
昭和50年度春夏作野菜・花き関係除草剤、生育調節剤試験成績概要……………	6
＜農林省野菜試験場 西 貞夫＞	
昭和50年度春夏作野菜・花き関係除草剤(材)生育調節剤(材)一覧ならびに判定表……………	6
Ⅰ. 除 草 剤……………	19
Ⅱ. 除 草 資 材……………	37
Ⅲ. 野菜関係生育調節剤……………	38
Ⅳ. 野菜関係生育調節資材……………	41
Ⅴ. 花き関係生育調節剤……………	42
新登録除草剤一覧……………	45
新登録生育調節剤一覧……………	47
新除草・調節剤……………	48